

この街が
好きだから

大須賀一雄

武蔵野スケッチ物語

④④



見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

境南町二丁目付近

今回の作品は、昨年の4月に話題の武蔵野プレイスを描いてみたくて、仕上げたものである。同館が実際にオープンしたのは、昨年7月であったが、建物自体は完成していたので、満開の桜並木と一緒に描けて、良かったと思っている。武蔵野プレイスは、図書館を中心に生涯学習、青少年活動、市民活動の支援機能を併せ持つ施設で、開館以来大勢の方々が利用していると聞いている。図書館の蔵書数は14万冊を超え、雑誌やDVDなどの資料が充実しているので、利用者の数は増えているようだ。

今年に入ってから、私も同館を訪れ、2階から地下2階までの各フロアを見させてもらったが、各階とも広いスペースで、温かい雰囲気の中、子どもを含め大勢の利用者でにぎわっていた。1階にカフェがあったのがうれしく、早速コーヒーをいただいた次第である。

(絵と文 大須賀一雄)

大須賀一雄 (おおすか・かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。